

新年のごあいさつ

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
旧年中は当院の運営に温かいご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

本年は午（うま）年です。古来より午は、勢いよく駆け抜ける力強さと、前に進み続ける躍動を象徴すると言われております。地域の皆さまの健康を守る使命を担う当院としても、この象徴にあやかり、より一層迅速かつ確かな医療の提供に努めてまいります。

超高齢社会の進展、疾病構造の変化、災害への備えなど、医療を取り巻く状況は大きく変化しております。当院は、急性期医療から回復期、在宅医療へとつながる“切れ目のない医療体制”をさらに強化するとともに、地域医療機関・介護施設との連携を一段と深めてまいります。

また、患者さま・市民の皆さまから「親しまれ信頼される病院」を目指し、職員一同、医療の質と安全の向上に不断の努力を続ける所存です。



本年が、地域の皆さまにとりまして、健やかで実り多き一年となりますよう心よりお祈り申し上げますとともに、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

病院長 山口 竜三



ナース・カー 高齢者施設職員と連携して入所者の重症化を防ぐ

あなたの施設に出動します。

ナース・カー Nurse Car

01



利用者さんの体調が心配

02

他にもこんなとき
お困りではありませんか？

- 急な発熱
- 痰がふえた
- 意識がぼんやりしている
- など

利用者さんの体調の変化、
急変時のサインからみません。

03



そんなときは、
稲沢市民病院の看護婦に
相談してください！！

04

ナース・カーの役割

- ✓ 看護婦が、高齢者施設に
伺いバイタルチェックや
アセスメントを行います。
- ✓ 必要時は、当院や近隣病院
と連携し、速やかに受診の
手配などを行います。



救急搬送が決定したら
看護師も同乗し
病院に向かう



救急隊の声

救急搬送される患者の容態を知っている看護師が救急車に同乗するため、情報が伝わりやすくなる。搬送先も決まっているためより早く医療を受けられる。

高齢者施設職員の声

病態が悪くなってからだと長期入院となり、認知機能の低下や普段できたことができなくなるため、悪循環になる。病状が悪くなる前に来てもらい、対処してもらえるので、入院期間が短くなる。利用者さんが施設に早く戻れる。



「ナース・カー」の目的

高齢の方の体調の変化に早く気づいて対応できれば、治療の開始も早くなります。その結果、入院期間が短くなり、いつもの暮らしに戻れる時期も早くなります。地域全体で連携することで、地域の中で安心して暮らせる環境づくりを目指しています。



／稲沢市民病院／

病院 News.

inazawa municipal hospital news

Vol. 104
2026. January

Emergency Room



稲沢市民病院

救急外来特集

新年もいのちは
つながっていく。



両輪で“あなたの生きる。”のその先の先へ。

稲沢市消防本部

稲沢市民病院

救急外来の役割とは？

通常診療では対応できない救急搬送される緊急度の高い患者、夜間、休日などの通常診療時間外で発熱、腹痛などの病気やけがの患者さんに対して24時間体制で、迅速に命をまもるための医療をおこなう役割を担っています。

車の両輪のように支え合い、命をつなぐ

現場では瞬時の判断が命を左右します。余談を許さない状況の中で、救急隊員は患者さんの状態を見極めながら、治療のスタートラインを切ります。処置を続けつつ、搬送先の病院を決定、搬送先への必要な情報を正確に伝え、現場から病院までの“途切れない医療”を日々、支え続けています。



稲沢市消防本部 稲沢消防署の救急隊員

「情報を伝える」しくみを考える

CHECK

搬送先の医療機関への情報伝達の工夫

見えている自分（救急隊員）が、見えていない相手（搬送先の医師、看護師）にどう伝えるか。「5W1H」で患者の姿が相手に明確にイメージでき、適切な医療の提供につながるよう瞬時に判断しながら情報を伝えるよう心がけています。

CHECK

リストバンド型メモ

現場の状況を記録する以外に、必要な情報を即座に記入でき、すぐに消せる腕に巻き付けるメモアイテム

CHECK

マイナ救急

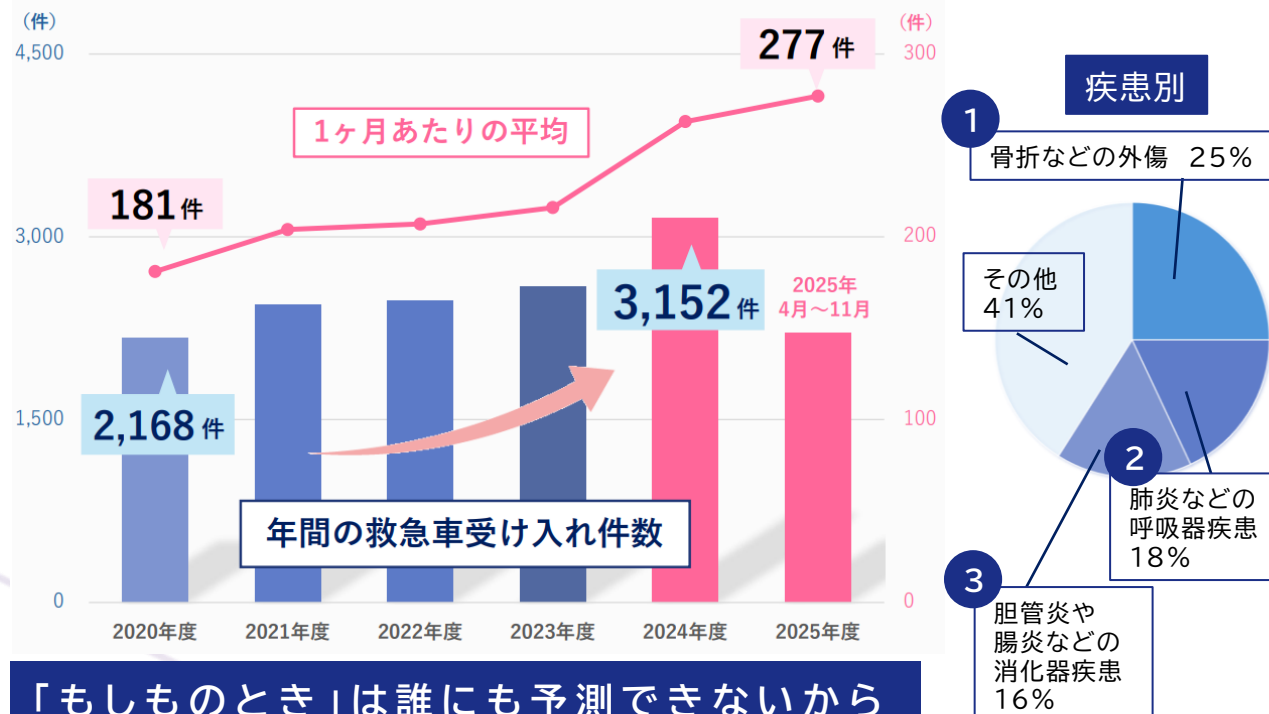
第三次救急病院に搬送の場合、傷病者のマイナ保険証を本人の同意のもとに確認
・受診した医療機関名
・病歴
・薬剤情報
・特定健診情報など
救急業務に必要な情報を閲覧します。

CHECK

消防と病院の救急運営会議・合同勉強会

患者搬送をより一層迅速にできるよう、定期的な話し合いを行い、課題を共有して問題解決に取り組んでいます。また、年に数回の合同勉強会を開催。災害対策訓練などを実施して情報交換・情報共有をしている。

救急車受け入れ件数の推移（年度：4月～3月・1ヶ月あたりの平均）



「もしものとき」は誰にも予測できないから



体調の変化はいつ起こるか誰にもわかりません。大切にしている価値観を家族やかかりつけの医師・看護師と前もって話し合っておくことをACP（アドバンス・ケア・プランニング）といいます。最期のとき、どんな医療を受けたい（受けたくない）かを、あなたの価値観をもとに考えておくことで急な状況でも落ち着いて考えることができるかもしれません。

年末・年始の救急外来

2025年

2026年

12月27日(土)～1月4日(日) 24時間

TEL 0587-32-2111 〒492-8510 愛知県稲沢市長東町沼100番地



救急外来HP

「発熱患者」専用エリア設置

感染流行期は「発熱患者専用エリア」を設置し、熱などの感染症の可能性のある患者さんの対応をします。



昨年は12月28日～1月5日の9日間で856名の救急患者さんの受け入れをしました。

多い日は、1日162名の方の受け入れをしました。今年度も引き続き医療体制を整え、年末・年始に救急で来院された患者さんの対応をします。

